

プロジェクトリーダー:金城学院大学 キリスト教文化研究所 丹羽卓教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	単位互換授業「キャリアプロジェクト」
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>履修学生にとっては、異なる大学の学生あるいは同じ大学でも学年の異なる見知らぬ学生とチームを組んで、テーマを決めて、活動方法などを話し合うというのがまず難しい課題だったであろう。さらに協力してくださった瀬戸市役所の方々や町の人々とどうコミュニケーションをとるかにも悩んだ様子が見えかけた。しかし学生たちはそれを通して「一緒に何かをする」ということの貴重な体験をし、多くを学んだと思われる。また、コミュニティバスや瀬戸豚といったまったく無関心だったテーマについても調べていくうちに理解が深まり、きちんとした意見を持てるようになったのも大きい。特に、瀬戸豚について調べて、そのプロモーション・ビデオを作成したチームは、たくさんの人々にアピールする作品を作り上げるためにチームワークが重要であることについても多くを学んだものと思う。</p> <p>短い期間での活動だったので、2つのチームとも成果物としては十分なものは作れなかったが、その過程で学んだものは、この授業ならではものだったのではないだろうか。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
<p>キックオフからふりかえりまで、以下のとおり計7回の授業を開催した。</p> <p>また、参加学生は全6名(名古屋産業大学から5名と名古屋学院大学から1名)であった。</p> <p>【第1回目】 6月18日(土) 13時30分～16時30分 場所:パーティセと</p> <p>キックオフミーティングとして、次のことを行った。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 授業担当者から、授業の目的、日程、方法等について説明(2) 履修者の自己紹介(3) 事前に提出させた学習シートに基づいたグループ分け(4) グループでの調査・研究テーマの決定 <p>【第2回目】 7月9日(土) 13時30分～16時30分 場所:パーティセと</p> <p>各グループがどういったテーマについてどのように調査・研究をするのかについての企画を報告した。出席を依頼した瀬戸市職員に、グループの具体的な活動方法などについて相談し、教員の指導のもと当初の企画を修正した。その後、グループごとに調査・研究を進めるかの具体的な計画を作成し、「課題整理シート」に記入し提出した。</p> <p>【第3回目】 8月8日(月) 13時30分～16時30分 場所:名古屋産業大学</p> <p>これまでの活動をグループ内で共有し、直すべきことを確認して、中間発表に向けての準備を行った。</p> <p>【第4回目】 8月10日(水) 13時30分～16時30分 場所:パーティセと</p> <p>瀬戸市職員同席のもと、その時点までの調査・研究の中間発表を行い、職員の方々及び教員からの質問、感想、意見を聞いた。その後、それ以降の活動計画を作成した。</p> <p>【第5回目】 8月26日(金) 13時30分～16時30分 場所:名古屋産業大学</p> <p>最終発表に向けての準備を行った。</p> <p>【第6回目】 9月2日(金) 13時30分～16時30分 場所:パーティセと</p> <p>瀬戸市職員出席のもと、グループごとに最終発表を行い、職員の方々および教員、さらには他のグループの学生からのコメントを聞いた。</p>	

<最終発表テーマ>

- ・瀬戸の魅力発信
- ・他都市から見る瀬戸市のコミュニティバスとコミュニティバス改善案

【第7回目】 9月8日(木) 13時30分～16時30分 場所:パーティセとパーティ瀬戸でこの授業全体の振り返りを行った。学生一人一人が自己評価をし、グループ内の他のメンバーの評価をし、さらには他のグループの評価も行い、それを定められた書式に記入して提出した。

本来のプロジェクトはここで終了だが、瀬戸豚チームの作成したプロモーション・ビデオには大幅な改善の余地があったため、そのグループの学生に作り直しを依頼した。本人たちにとっても不本意な結果だったため、これに同意し、現在はその完成前の段階であるが、2017年2月15日(水)の活動成果報告会では、完成したプロモーション・ビデオを披露できる予定である。

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

中間報告に記載した内容と同じで、なかでも最大の課題は各大学から幅広く履修者を獲得することにある。オリエンテーションだけではなかなか目に留まらない性格の科目であるため、この科目を履修するよう学生に勧めていただくなど、各校の先生方の協力がぜひとも求められる。

また、もう一つの課題は、活動期間が実質3ヶ月しかなく、実りある成果を得るには短すぎるように思える。次年度以降継続するなら、授業期間の延長について検討してみる必要があると考える。